



岡本眞利子 議員
(政清会)



問 日本は今後、少子高齢化が急速に進むことから元氣な高齢者や若者、女性、障がい者など働ける人みなで社会を支えていくという全員参加型の社会に移行されることが期待される。平成25年4月に「高齢者雇用安定法」が施行されたが、本町の高齢者雇用の支援状況について伺う。

(1) 高齢者の就職現状（求職者数と就職件数）。

(2) 「高齢者就労センター」の会員数、就業形態。

(3) 企業との高齢者雇用の連携体制。

(4) 高齢者の就業に対しての今後の事業計画について。

町長 (1) 平成27年度の65歳以上の高齢者の求職者数は340人で、そのうち就職者数は5人。また、本年4月から9月までの6カ月間の求職者数は242人で、そのうち就職者数は4人である。

(2) 会員数は年々減少傾向にあり、平成27年度は126人で、前年比で6人の減となっており、毎年2

問 地域で働きやすい「生きがい就労」の推進を生涯現役で活躍し続けられる社会環境を整えていくことが重要

月から3月にかけて会員募集や登録を行っており、就労センター担当員が中心になり、業務の依頼内容や作業場所等に応じて就労の割り当てを行っている。

(3) 商工会を通じて、国の助成制度などについて周知を行い、高齢者の雇用の促進に努めている。

また、本町を含めた8町と各町の商工会等で構成する十勝北西部通年雇用促進協議会において、企業経営セミナーの実施や雇用相談窓口の開設などを実施し、高齢者等の雇用拡大に努めている。

さらに、役場、支所・出張所でハローワークの求人情報を提供していきたい。

(4) 高齢者就労センターの運営の充実に向け、町としてどういった支援ができるのか、幕別町社会福祉協議会と協議を行っていくとともに、就業機会の提供だけでなく、人生学博士制度やしらかば大学などの生涯学習活動、老人クラブや地域サロンの活動などについても幅広く周知を図り、高齢者の活

躍の場の確保に努めていきたい。

再質問 就労センターの会員数が減少傾向にあることから就労形態に専門的分野、経歴、特技、性格等を今後考慮すべきではないのか。

答 社会福祉協議会と協議をさせていただき、町としてできることについては協力していきたい。

問 「幕別町応援大使」事業の継続を

答 協力いただけないか検討中



問 日本ハムファイターズの大谷選手、市川選手が幕別町応援大使として1年間宣伝役として大活躍していただいた。その経済効果は極めて大きなものと認識しているが本年末で終了となる。そこで町のPRを継続して実施するための次なる方策を講じるべきである。わが町には5人のオリンピック出場選手がいることから、ぜひ、町の宣伝に協力いた

けるよう努力すべきである。

町長 町としては、この1年間、日本ハム球団や応援大使が残してくれた軌跡の活用をはじめ、極力、負担がかからない形で町の町内出身のアスリートの応援大使や観光大使的な協力について、現在、検討している。

再質問 応援大使は町のPRに効果的な事業であった。次の一手を早急に進めるべきである。

答 5人の現役のオリンピック選手がシーズンオフの期間に来町した際には協力してもらえるように協議していきたい。



10月に開催されたオリンピック選手5人によるトークショー（百年記念ホール）